

第2章 豊岡市の概要

本章では、豊岡市の社会・自然・歴史などの現状把握を行う。なお、歴史・文化の個別事項（史跡・彫刻・建造物・民俗・天然記念物など）についての詳細は、資料編（50ページ）で記述する。

第1節 社会

(1) 位置

豊岡市は兵庫県の北東部に位置し、北は日本海、東は京都府京丹後市・与謝野町・福知山市、西は香美町、南は養父市と朝来市に接する。東西 38.8km、南北 32.2km にわたり、総面積は 697.55k m²（県全体の 8.3%）と、県下で最も広い面積を占める。



図2 豊岡市の位置

(2) 市域の変遷

明治4年（1871）の廃藩置県、府県改置を経て、但馬、丹後及び丹波の一部を管轄

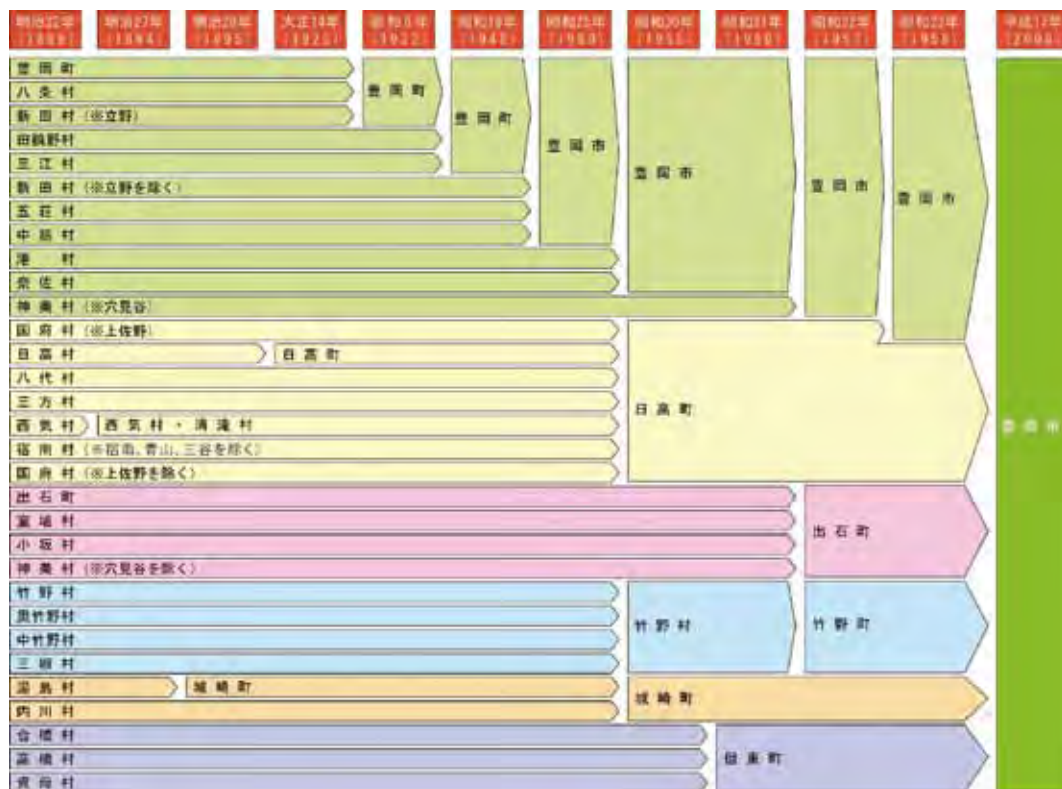


図3 豊岡市の変遷

する豊岡県が設置されたが、明治9年（1876）豊岡県は廃止され、兵庫県に併合された。

明治22年（1889）の市制町村制施行を受けて誕生した市町村は、昭和20年代から30年代前半にかけて相次いで合併した。平成17年（2005）4月、豊岡市（以下、豊岡地域という）と、城崎町・竹野町・日高町・出石町・但東町（以下、城崎地域・竹野地域・日高地域・出石地域・但東地域という）の1市5町が合併して、現在の豊岡市が誕生した。

(3) 人口・世帯数

国勢調査によると、平成27年（2015）の豊岡市の人口は82,250人である。市全体の人口は昭和55年（1980）をピークに減少しており、平成22年（2010）に比べて3,342人（3.9%）減少した。人口分布は、豊岡地域が全体の52.7%、城崎地域が4.3%、竹野地域が5.5%、日高地域が20.2%、出石地域が12.1%、但東地域は5.2%で、豊岡地域が過半数を占めている。年齢3階級別人口は、年少人口（0～14歳）が13.0%、生産年齢人口（15～64歳）が55.3%、老年人口（65歳以上）が31.7%である。平成22年（2010）と比べると、年少人口は0.9%、生産年齢人口は2.6%減少しており、少子高齢化の進行が顕著である。一方、世帯数は30,189世帯と、核家族化の進行により増加傾向にあるものの、その伸びは鈍化している。

今後、人口減少ペースはさらに加速し、2040年には約5.8万人、2060年には約3.8万人まで減少すると推計される。本市では、平成27年（2015）に「豊岡市人口ビジョン」を策定し、2060年の人口目標を約4.7万人とし、目標達成に向けて各種政策を展開している。

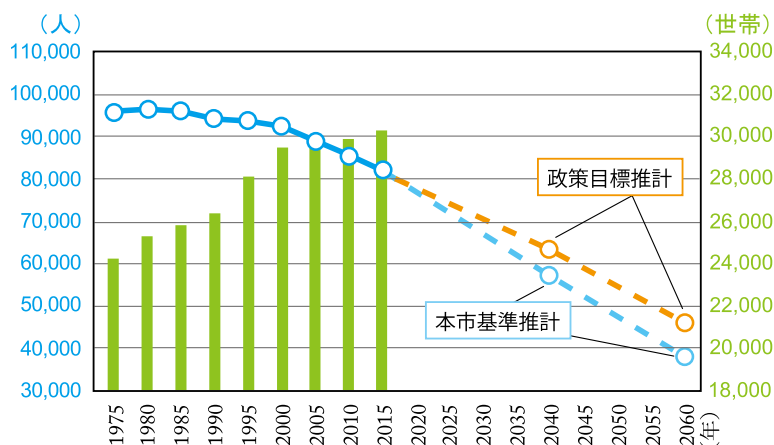


図4 人口・世帯数の推移（国勢調査、「豊岡市人口ビジョン」より）

(4) 産業

地場産業は、かつては柳行李生産や養蚕が盛んであったが、現在では国内一位の出荷額を誇るかばん製造業、城崎麦わら細工、出石焼、但馬ちりめんなどがあげられる。また、地域によっては、農林水産業や観光業なども盛んである。農業では「コウノトリ育む農法*」を中心とした稲作や、神鍋高原などでのキャベツ、スイカを中心とした畑作、畜産業では「但馬牛」「但馬鶏」の飼育が行われ、漁業では「津居山かに」やハタハタ、ホタルイカなどが水揚げされている。

平成26年（2014）における産業別就業者の構成比は、第3次産業就業者が74.0%と最も高く、次いで第2次産業就業者が25.1%、第1次産業就業者が0.9%となっており、都市型の産業構造を示している。平成13年（2001）からの傾向をみると、第2次産業就業者が減少傾向にある。業種別の就業者数は、医療・福祉の増加率とサービス業の減少率が高い。

商業のうち商品販売額は、平成14年（2002）の2,258億4,097万円から平成25年（2013）の

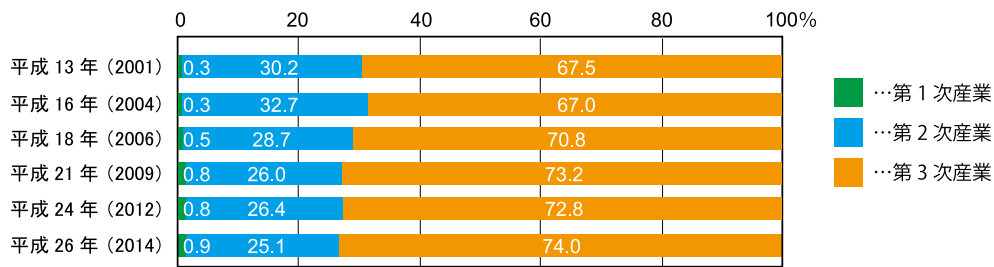


図5 産業別就業者構成比の推移（総務所「事業所・企業統計」などより）

1,595億2,282万円へと減少している。工業では、増減が激しいものの、事業所数、従業員数、製造品出荷額はともにおおむね横ばいか微増傾向にある。農業産出額は、県全体、但馬地域と同様に減少傾向にある。

観光客入込数は、「但馬理想の都の祭典」が開催された平成6年（2002）の710万人をピークに減少傾向にあったものの、平成24年度の428万人を底に増加に転じ、平成26年度は448万人となっている。特に、城崎地域は平成22年度の74万人から平成26年度の92万2千人へと大きく増加している。これは、訪日外国人（インバウンド）の需要を取り込めたためであり、戦略的な観光施策が効果をもたらした好例である。



写真2 豊岡鞆



写真3 出石焼と出石そば

(5) 交通

道路網は、市中心部を南北に縦断する国道312号と主要地方道豊岡瀬戸線、北部を東西に横断する国道178号、南部を東西に横断する国道482号と国道426号を軸に形成されている。高速道路網は、南北軸として「北近畿豊岡自動車道」が、東西軸として「山陰近畿自動車道（鳥取豊岡宮津自動車道）」が事業化・計画されている。北近畿豊岡自動車道は、円山川左岸側を通り、豊岡市正法寺から舞鶴若狭自動車道の春日ICを結ぶ予定の延長約70kmの高規格幹線道路である。但馬地域の地域振興を支える道路として、平成29年（2017）3月には日高神鍋高原ICまでが開通した。

鉄道では、JR（山陰本線）、京都丹後鉄道（宮豊線）の2つの鉄道路線がある。JR山陰本線は、和田山駅から円山川沿いに北上し、豊岡市中心部を通過したあと城崎方面を経て鳥取方面に至る。市域での路線は単線であり、城崎温泉駅より南は電化されている。京都丹後鉄道宮豊線は、平成2

年（1990）4月にJR宮津線から転換開業した路線で、豊岡から京都府京丹後市を経て宮津市に至る。路線は単線非電化で、円山川を東に渡ってからは山地を縫うように走り、県境の馬地トンネルを経て京丹後市方面に抜けている。主要各駅の利用状況は減少傾向にある。

バス交通では、但馬地方唯一のバス事業者である全但バスが路線バスを運行している。また、城崎地域以外ではコミュニティバス*が運行されている。

空の交通では、平成6年（1994）に兵庫県管理の民間機専用空港「コウノトリ但馬空港」が開港し、大阪国際（伊丹）空港へ1日2便運行されている。

港湾では、円山川河口の津居山湾に津居山港、竹野川河口の竹野湾に竹野港があり、地方港湾として県が管理している。漁港は、津居山湾に田結漁港、竹野に田久日漁港、宇日漁港、切浜漁港、須井漁港の5つがあり、いずれも第1種漁港として市が管理している。



図6 交通網（『豊岡市都市計画マスタープラン』より、一部改変）

第2節 自然

(1) 気候

日本海に面する本市の気候は、全国的にみても霧や雨、雪が多いことが特徴である。内陸部では年間を通じて霧の発生が顕著で、平成21～26年度の年間発生日は平均で約69日（約5日に1日）に及ぶ。

4月～9月には南寄りの風によるフェーン現象が加わり、異常な高温となることがある。夏は蒸し暑く、冬は積雪が多く寒いという気候が、本市の歴史や文化に影響を与えている。特に、秋から冬にかけての降水・降雪量の多さは、「弁当忘れても傘忘れるな」とも言われている。



写真4 来日岳から望んだ、豊岡盆地を覆う雲海

(2) 地形

市域は、最高峰である蘇武岳^{そぶがたけ} (1,074 m) をはじめとする山地に取り囲まれ、平野は円山川とその支川^{しせん} (奈佐川^{いなぼ}、稲葉川、出石川、太田川) 及び竹野川沿いに発達している。

豊岡盆地や出石盆地では、円山川水系の恵みを受けた低湿地に田園が広がり、東に三開山^{みひらきさん} (但馬富士) や法沢山、西には大岡山や矢次山、南には床尾山^{とこのお}や須留岐山^{するぎさん}、北には来日岳^{くるひだけ}などの山々が連なっている。山裾は、河川の浸食などの影響を受けて急峻である。そのため集落は、山裾と平野の境や川筋に沿った谷底部分などに位置し、平坦な盆地部は田畑として活用されている。山間部では、高龍寺ヶ岳、蘇武岳などの山々から流れる支流が、いくつもの谷筋を形作りながら市域中央部の盆地へと流れ込み円山川などに合流する。

稲葉川上流には、神鍋山の火口を中心に平地が広がる神鍋高原がある。この一帯は約2万5,000年前まで火山活動が続き、その溶岩は、稲葉川沿いに滝や淵などの名勝・奇勝を作りあげ、円山川まで達した。この高原の穏やかな傾斜地は、田園や果樹園として利用されたり、グラウンドやテニスコートなどの施設が整備されたりしている。また山裾付近では、傾斜を利用してスキーやパラグライダーが行われ、四季を通じて観光やスポーツ、レクリエーションの場として活用されている。

竹野川水系の三原 (竹野) や出石川水系の高龍寺 (但東) などの上流地域にも、小規模ながらも高原状の地形が見られ、集落と棚田を形成している。

山陰海岸国立公園に指定されている日本海沿岸部は、岬や入江が複雑に入り組んだりアス式沈降海岸を形成していて、竹野川の河口に小規模な沖積平野をもつ以外は、磯場が続いている。また、



写真5 神鍋山 (中央) と神鍋高原

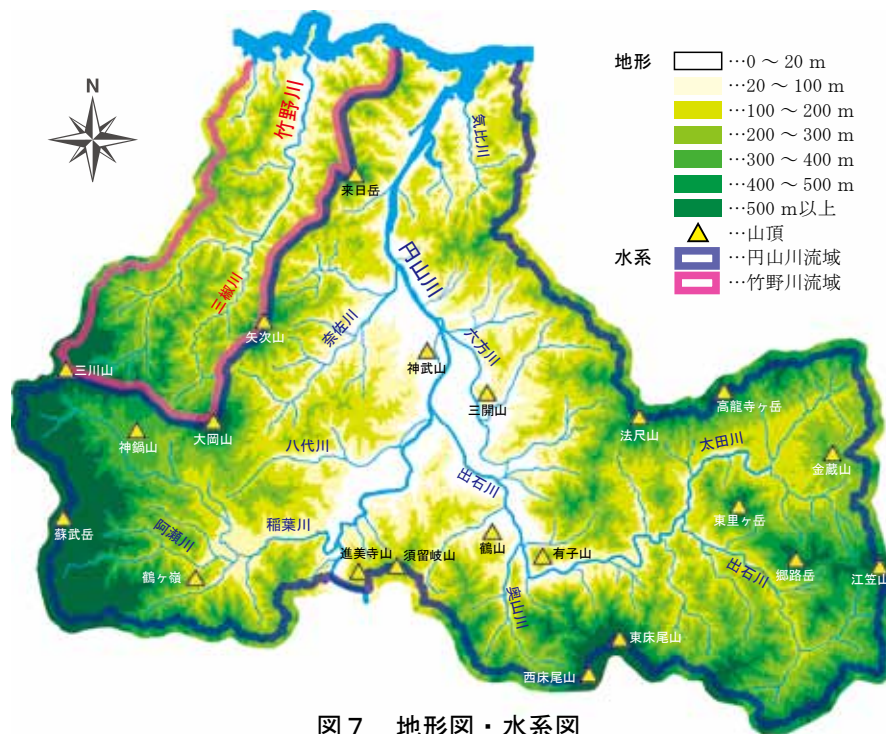


図7 地形図・水系図

冬季の波浪による侵食を受けた結果、海食崖が発達し、崖面に露出した岩石が、不規則な硬軟・節理・岩脈などの性質によって波浪・雨水・氷雪の侵食を受け、白砂青松の竹野浜や気比の浜、はさかり岩、淀の洞門などの奇岩、洞窟、洞門などを形成している。平成22年(2010)には、世界ジオパークにも認定された。

(3) 地質

地域の地質は、大きく4種類に分けることができる。それは、基盤岩*としての山陰花崗岩^{かこうがん}および矢田川^{やだがわ}流紋岩、日本海ができる時の堆積岩*である北但層群^{ほくたんそうぐん}、第四紀*の玄武岩、そして現世の堆積層（完新統*）である。

山陰花崗岩や矢田川流紋岩は、中生代*末から新生代*にかけての岩石で、円山川東側（出石・但東）の山地を中心に、竹野地域北部などに分布する。

北但層群は、約2,000万年前から1,500万年前にかけて、日本列島がアジア大陸の東端にあった頃、火山活動によって大地の割れ目ができ、割れ目の広がりにより海水が浸入して日本海ができた際の岩石・地層のグループをいう。安山岩や流紋岩などの火山岩のほか、河川や氾濫原*、海の堆積物が多く含まれている。北但層群のうち、神鍋高原周辺からは当時の海底に溜まった魚や貝の化石が、竹野浜からはゾウの足跡化石などが見つかっていて、時代や当時の環境が推定できる。

第四紀の火山は、玄武洞付近と神鍋山周辺にあり、玄武岩が分布している。

完新統は、豊岡市街地を中心とした円山川周辺にみられる。低平な豊岡盆地の地下には、円山川が運んだ軟弱な粘質土・砂質土が50m前後堆積していて、日本でも有数の軟弱地盤となっている。この低湿地は、コウノトリをはじめとする多様な生き物が生息する自然環境を生み出している。

なお、特徴的な地質として、玄武洞付近の玄武岩や神鍋山周辺のヒン岩^{あんざんがん}（安山岩）、但東地域の蛇紋岩^{じゃもんがん}、竹野地域の青井浜^{あおい}付近で採れる青井石がある。特に、玄武洞の玄武岩や青井石は建材として用いられ、それぞれに地域固有の色合いを生み出している。



(4) 水系

水系は、市の中心部を南北に縦断する円山川水系と、竹野地域を流れる竹野川水系の2つからなる。竹野地域すべてが竹野川水系に属し、それ以外は円山川水系に属する（図7）。



写真6 円山川河口と山陰海岸



写真7 穏やかな流れの円山川下流域 (撮影:二位岡野氏)

円山川は、朝来市生野町に源を発する流域面積 1,289 km²、幹川流路延長 68.5km、支川延長 638.3km、の一級河川である。出石・但東地域に水源がある出石川水系と、日高地域に水源のある稲葉川水系の2つの大きな支流がある。

円山川は、陸上交通が発達するまで舟運が盛んで、多くの恵みをもたらしてきた。円山川の下流部は低平地で勾配が1万分の1程度しかないため、洪水時には内水被害が生じやすい地形である。ただし、満潮時には海水が進入することや、両岸に広がる田園は平坦で地盤高が低いことなどから、コウノトリなどの生息に適した湿地状の環境が形成されており、ラムサール条約湿地に登録されている。玄武洞付近から河口にかけての約8kmの区間は、両岸に山が迫り沖積地が極端に狭い。この周辺では、山裾の少し上部に道や集落が位置している。

竹野川流域はおおむね急峻な地形であり、円山川水系と比較すると河床勾配が高く急流で、下流部にいくほど沖積低地の幅が広がる三角洲性低地が広がっている。平坦部は竹野川沿いに分布し、特に河口部に集中している。竹野川は全長 21.2km で三川山^{みかわ}付近を源流に、三椒川^{さんしよ}などの支流と合流しながら日本海へと注いでいる。支流延長は 60～70km にのぼり、狭い谷筋の限られた平野が耕地として利用され、その周辺に集落が形成されている。

(5) 生態系

植生

市域の約8割が山林である。現在、集落の背後にある里山は、コナラやアカマツを中心とした二次林と、植林されたスギやヒノキが占めている。ただし、本来の植生は、山岳部ではブナやミズナラなどの夏緑樹林*で、海岸部はシイなどの照葉樹林、内陸部はカシなどの照葉樹林*である。

海岸部は山陰海岸国立公園に、山岳部の一部は氷ノ山後山那岐山国定公園に指定され、保護保全対策が進められている。

広大な農耕地帯がある豊岡盆地や出石盆地などは、コウノトリの生息地として最適な環境であり、かつて細見の鶴山（出石）などの山の松には、たくさんのコウノトリが巣をつくっていた。田園では、絶滅危惧種の水田雑草のミズアオイなども近畿最大規模で自生している。

円山川や竹野川には大小の帯状の河畔林が広がる。日高地域では、長さ約1km、最も広いところで100mにおよぶケヤキ、エノキなどの河畔林があり、多くの生物が棲息している。絹巻神社（豊

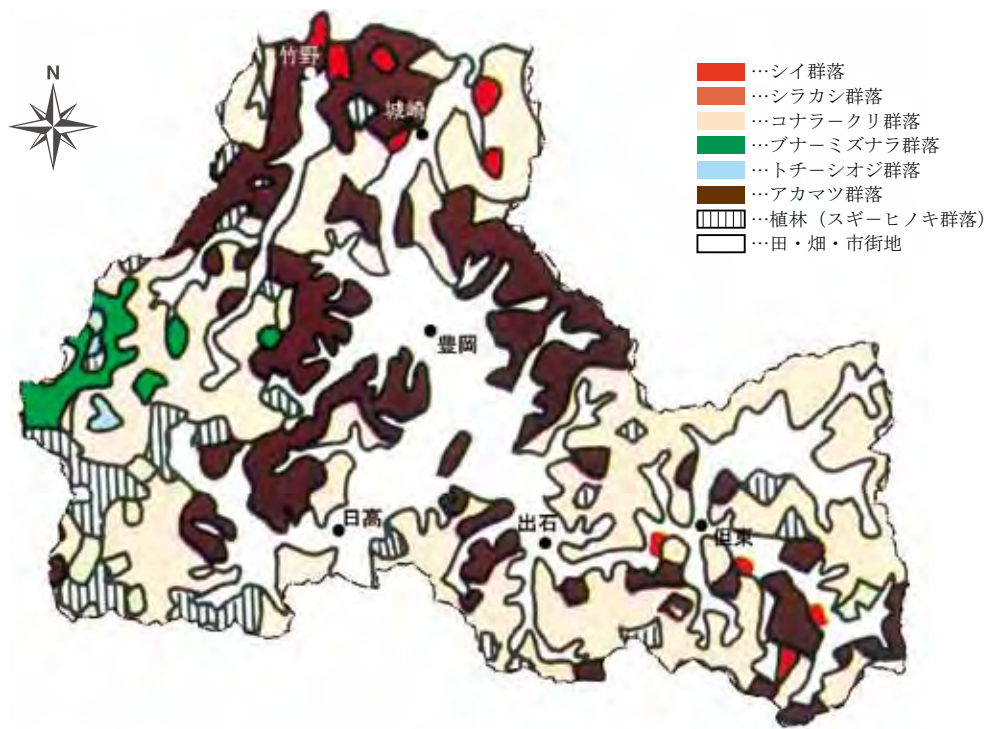


図9 現存植生図（神戸新聞社 1974『兵庫探検 自然編』より、一部改変）

岡）や井田神社（日高）には、スダジイやアラカシなどの照葉樹林がわずかに残る。また、城崎地域の円山川下流部には、渡り鳥の休息地となっている葦原が広がる中洲や河川敷がある。

猫崎半島の賀嶋山は、常緑樹の原生林で覆われ竹野地域のシンボルになっている。

動物

森・里・川・海・汽水域*など、多様な環境に恵まれた本市では、森にはツキノワグマ、里にはコウノトリ、川にはオオサンショウウオ、汽水域にはヒヌマイトトンボなど、天然記念物や絶滅危惧種に指定されている希少生物をはじめ、多種多様な動物が息づいている。市域にしか生息していない固有種は少ないものの、多様な環境に生息する多様な動物が本市の特徴である。

しかし、近年はシカ害が深刻化しているほか、アライグマやヌートリアなど外来種が増殖し、生態系に大きな影響を及ぼしていることが課題となっている。



写真8 絹巻神社の暖地性原生林(写真中央)



写真9 円山川の河畔林